

羅 針 盤			方 策	点検・評価		達成度	達成状況のまとめ及び次年度の課題	学校関係者評価 (別紙に記載)
評価対象	評価項目	具体的数値項目		自己評価	外部アンケート等			
Ⅰ 特色ある学校づくりに努めていますか。	1 特色ある教育活動を行っていますか。	(1) 定時制工業高校としての特色を理解して、自分の学校が好きだと感じている生徒の割合は、80%以上である。	シラバスや学校生活案内を活用して学校の特色を理解させるとともに、学校生活や行事等に生徒が自ら参加し充実できるよう、全職員が組織的に取り組む。	A	A	A	多くの生徒は、定時制の生活リズムを掴み学校生活を充実させている。前工祭(文化祭)などの学校行事にも積極的に参加する生徒が多い。4年生では継続就職を含めほぼ希望した進路の実現を果たした。少子化が定時制の魅力を発信し、生徒数の確保をしたい。	①
		(2) 工業の基本である「ものづくり」に積極的に取り組んでおり、座学や実習内容に満足している生徒が80%以上である。	「ものづくり」への興味関心を高め、生徒が授業へ主体的、積極的に取り組めるような授業展開をする。	A	A	A	基礎基本を重視し、生徒が積極的に取り組めるよう分かりやすい授業展開を行っている。授業を通して、ものづくりに興味関心を持ち「総合的な探究の時間」の目的に沿った内容となるように生徒の専門性や主体性を育てていきたい。	
		(3) 生活体験発表作文に全校生徒が参加し、作文の提出率は100%である。	生徒の今までの生活を記録し見直すことで、自己成長のきっかけとする。定時制通信制課程の重要な学校行事という共通理解のもとで、全職員・全校生徒で取り組み、上位大会出場を目指す。	A	-	A	全校生徒が生活体験発表大会という行事をきっかけに、自己を見つめ直し、これからの成長の基盤をつくる良いきっかけとなった。学校代表者2名は、中北毛大会に出場し立派に発表することができた。	
	2 専門高校として、職業人材育成のための取り組みをしていますか。	(4) 専門的な資格取得や技術の習得に向けた指導に生徒の80%以上が満足している。	社会とのつながりを意識させ、学習内容を分かりやすく理解しやすいように工夫する。また、個々のレベルや目標に合わせた指導を実践する。	A	A	A	基本的な挨拶や礼儀の習慣が身につけている生徒が多い。教員側も生徒に挨拶を促すばかりでなく、教員からも積極的に声掛けを行い、手本となる行動を示していきたい。	
		(5) 安全意識を高めるため、作業着の着用、授業の準備・片づけが積極的にできる生徒が80%以上である。	5S活動を意識させ安全意識を高め、実習前の準備・後片づけを自主的にさせ、実習着の着用目的を説明し安全意識を高める。	A	A	A	職業人共通の基本である安全安心な環境づくりに意識が高まるよう、5S活動を徹底し、整理整頓を励行し座学や実習等を通して取り組んだ。	
		(6) 生徒の実態に応じた学習指導を実施し、学習に対する達成感・満足感を持っている生徒が70%以上である。	到達目標に達しない生徒について、授業中の他にも授業前・放課後を利用して補習等を計画する。	B	A	A	各教科において、学習用端末を適宜使用し、授業展開を分かりやすく工夫している。成績会議後の成績不振者に対しては、個別に学習計画表を作成させて課題や補習等を実施するなど環境を整えた。ただ、該当生徒の課題の進捗状況を確認していく必要がある。	
Ⅱ 生徒の意欲的な学習活動について適切な指導をしていますか。	3 生徒の実態に応じた指導を行っていますか。	(7) 分かる授業の展開に工夫があり、授業の理解度は70%以上である。	言語活動の充実に努め、生徒が積極的に参加できる雰囲気づくり、分かりやすい授業の工夫を行う。	B	A	B	授業改善コーディネーターを中心に、今年度の全体のテーマを決め研究授業を行った。参観記録を共有し自己分析を行い、今後の授業改善に活かせるよう工夫した。	②
		4 生徒は確かな学力を身に付けていますか。	(8) 到達度の低い生徒に対して各教科で対策を考え、課題等の完了率は90%以上である。	補習や課題提出など個人に合わせた対策を取り、速やかに指導を行い自覚を促す。また、教科によっては授業中においても習熟度別に対応している。	A	A	A	
Ⅲ 生徒の充実した学校生活について適切な指導をしていますか。	5 組織的・継続的な指導を行っていますか。	(9) 生徒会主催行事に積極的に生徒が参加し、生徒の70%以上が満足している。	生徒会役員を中心に生徒が自己有用感を感じられる行事を計画・実行する。	A	A	A	生徒会行事に対する生徒の満足度は非常に高い。前工祭では、生徒の意見を取り入れた企画・運営を実現することで、参加した多くの生徒が自己有用感や達成感を実感できた。職員間の連携も円滑に行われている。	③
		(10) 部活動体験等を活用し生徒が部活動参加しやすい環境を作る。70%以上が満足している。	部活動紹介で入部を積極的に働きかけたり、自分に適した部活動選択ができるよう部活動体験入部期間を設ける等、部活動への参加を促す。	B	A	B	新入生対象の部活動紹介は、入部への動機付けとなっている。部活動は学年を超えての人間関係を築く場でもある。部活動は、生徒が活躍できる場の一つでもあるので、今後も入部を働きかけていきたい。	
		(11) 校内の環境整備や美化について理解を深め、公共設備等を大切に使用し、清掃活動等積極的に取り組んでいる生徒が80%以上である。	清掃の意義を理解させ、公共設備を大切にするなど、社会の常識を身に付けるよう喚起する。	A	-	A	清掃監督の指示のもと、多くの生徒が放課後の清掃活動に積極的に取り組んでいる。ロッカーや下足箱の丁寧な使用や整理整頓についてより意識を高めさせたい。	
		(12) 学校と緊密に連絡を取り、生徒の怠慢による遅刻や欠席をなくす努力をしている保護者が80%以上である。	保護者と学校とで生徒の情報を共有し、継続的に登校を促すことで、遅刻や欠席をなくす。	B	A	A	欠席時の連絡は保護者から電話してもらおうよう依頼することで、明確な理由がない欠席や遅刻を減らすことができた。さらに、生徒の変化の兆候を把握できるなど、保護者と学校との生徒情報の共有にも役立っている。	
	6 生徒は健康で、規則正しい学校生活を送っていますか。	(13) 欠席・遅刻をしないように努力している生徒が80%以上である。	学校生活の中に自分の活動の場を見だし、充実した学校生活に向けて取り組めるよう喚起する。	B	A	B	基本的な生活習慣を身につけるため、身なりや髪型を整えるなど生活面での指導を実践している。生徒が安心して通学できる学校環境の整備に向けて、問題行動の未然防止にも取り組んでいる。問題発生時は、保護者への連絡を迅速に行っている。	
		(14) 治療勧告を受けて、健康管理の必要性を認識している生徒は80%以上である。	集会での呼びかけや治療勧告書の再発行により、保護者・生徒への注意喚起を行う。	B	B	B	治療勧告書の提出状況は、目標としていた数値には届かなかった。これは、アルバイトを含め就業している生徒が多いために、医療機関に通いつらいという点が考えられる。長期休業前には生徒へ呼びかけを行い、受診率の向上を図りたい。	
	7 学校はいじめの防止や早期発見に向けた取組を積極的に行っていますか。	(15) 自死防止・いじめ防止に努め、いじめの解消率は100%である。	生徒観察を充実させ、職員間の情報共有を図る。悩み相談窓口等の周知や年3回のいじめアンケートの実施を通じて、自死防止、いじめ防止に努める。	A	A	A	生徒観察、生徒面談、アンケート等による生徒情報の収集や職員間の生徒情報の共有等が、生徒の不安や悩みを早期解消、いじめ防止につながった。	
		8 交通安全教育を推進していますか。	(16) 交通用具利用者(ほぼ全員)に対し、車両点検を年3回実施し、安全指導・安全管理を徹底する。	年3回の車両点検や交通安全教室を行い交通事故防止に努める。マナーアップ運動や下校時指導を通じて、自転車ヘルメット着用の促進、交通安全意識の向上を図る。	A	A	A	
Ⅳ 生徒の主体的な進路選択について適切な指導をしていますか。	9 計画的な指導を行っていますか。	(17) 仕事と勉強を両立させようとして努力している生徒が80%以上である。	望ましい就業指導を実施し、学業と両立できるようバックアップする。	B	B	B	在校生の就業率は61%(10月の調査)である。個々の事情に応じてアルバイトを進め、就業意識を高めたい。卒業生の進路先は90%決まった。まだ未確定な生徒の支援を継続中である。	④
		(18) 生徒の生活改善や進路相談のため、保護者との面談を年1回以上実施している。	家庭訪問、三者面談、授業公開、研修会等、保護者が来校しやすい環境を整える。	A	A	A	4年生は1学期期末テスト期間中、2,3年生は夏季休業中に三者面談を行っている。1年生は家庭訪問を実施している。	
	10 生徒は自らの進路について真剣に考え、その実現に向けて取り組んでいますか。	(19) 進路実現に向けて積極的に取り組んでいる生徒が80%以上である。	進路実現に役立つ情報提供や学校校外での資格など促していく。	A	A	A	インターンシップの参加者が7名いた。受入れ先の協力で充実した体験が出来た。進路講話、進路ガイダンス、卒業生からの一言などで進路意識が高められた。4年生にビジネスマナー講座、面接指導、社会人マナー講座を実施し社会人としての基本的な事柄を学んだ。	
Ⅴ 開かれた学校づくりに努めていますか。	11 家庭・地域社会に積極的に情報発信をしていますか。	(21) 家庭や地域との情報共有や相互の信頼関係を構築出来るよう「学校公開」を年3回以上実施する。	関係各所と連絡を密にとり、分かりやすい学校説明会を実施していく。	B	B	B	中学校訪問・学校説明会は昨年に引き続き計画通り実施し、一定の成果を収めることが出来た。一方、授業公開は1年生を除き参加者はごく限られたものとなった。今後、参加者が増えるような方策を考えていく必要がある。	⑤
		(22) GSN等のネット媒体のさらなる活用とともに学校から発信するホームページは少なくとも月1回以上は更新する。	ICTを活用すると同時に、紙ベースの連絡手段も残し、連絡に遺漏がないように努める。	A	A	A	主な行事ごとにホームページを更新することが出来た。また、緊急連絡等があった場合、GSN一斉メールを活用し、各家庭に連絡をする体制を整えている。	
		(23) 科目履修生や専科生等社会人を受け入れている講座が5科目以上ある。	積極的に報活動を推進し広く希望生徒を受け入れ、一人ひとりにきめ細やかな指導をしていく。	B	B	B	ここ数年科目履修生や専科生の受講希望者は少ない。ただ希望者が出た場合はいつでも受け入れられるよう準備し環境を整えておきたい。	
	12 家庭・地域社会の教育力を活用していますか。	(24) 保護者や地域社会の人を講師とした講演会などを年3回実施している。	地域で活躍する社会人講師を招き講演をいただくことで、地域の一員として参画する意識を高め、キャリア教育に活かしていく。	A	A	A	行事において、地元の講師を招き講演していただいている。講師の経歴や生き方、仕事に対する考え方などを学び職業選択に活かすことができた。また、行事ごとにキャリアパスポートを作成し、将来について考えるきっかけとなっている。	
Ⅵ 教育デジタル化に努めていますか。	13 ICTを活用した指導を行っていますか。	(25) ICTを活用した授業に生徒の80%以上が満足している。	各教科で授業展開の中に適宜学習用端末を取り入れ、ICTの活用を充実させる。	A	A	A	視覚的・体験的な作業効果により、興味関心を効率よく高めることができています。情報社会に対応していくために、学習用端末を効果的に使っている。ただ、教科によりICTの活用が難しい科目があるが、適宜利用して分かりやすい授業展開をしていきたい。	⑥
	14 ICTを活用した業務改善を行っていますか。	(26) ICTを活用したアンケートに生徒・保護者の80%以上が満足している。	各種アンケートを学習用端末やスマートフォンなどを利用することで、回答の簡易化の周知と、集計の効率化を図る。	B	A	B	学校評価のためのアンケートについては、生徒・保護者ともにFormsやメールにて行うことで回答のしやすさや集計効率が良くなった。ただ、保護者からのアンケートの回答率を上げるために周知方法を考える必要がある。	